

鈴木商店跡 栄町通7丁目



神戸中央郵便局西側の区画は、かつての鈴木商店の本店があった場所である。鈴木商店は1874（明治7）年頃、初代鈴木岩治郎が洋糖引取商の看板を掲げ創業。女店主鈴木よねの時代に入り、番頭金子直吉（かねこなおきち）の天才的経営手腕で、日本を代表する商事会社に躍進した。金子は日清戦争後の台湾開発や第一次大戦の大戦景気をバネに、従来の砂糖販売から肥料・茶・樟脳・外米・生糸・木材などに業務を拡大し、三井・三菱と肩を並べるほどの大財閥に成長し、大正財閥の花形に踊り出たのである。こうして大正時代に黄金期を迎えていた鈴木商店も、1918（大正7）年の米騒動で、鈴木商店が米を買い占めたとの噂が広がり、暴徒によって焼き払われるという事件が起こっている。大正時代、一時は三井・三菱をしのぐ勢いをみせた鈴木商店も1927（昭和2）年の金融恐慌によってあっけなく倒産してしまうのであった。この時、鈴木商店は台湾銀行から多額の不良貸付を受けており、そのため台湾銀行は危機に陥っていた。その不良債権をかかえた台湾銀行を救済するため、時の若槻礼次郎内閣は緊急勅令を發布しようとしたが枢密院の反対にあい成功しなかった。そこで台湾銀行は鈴木商店をみはなし、鈴木商店は同年4月倒産したのである。鈴木商店は滅んだが、彼らの残した事業と人材はその後のわが国の工業化に偉大なる功績を残している。

なお、本店があった場所には、2017（平成29）年に関係者によってモニュメントが建立された。